



CONVERSATION STRATEGIES

利用の手引き

日本語版



渡辺 雅仁

Conversation Strategies 利用の手引き



英語で海外の人と会話ができたらすてきですね。教室で英語を学ぶ学習者は会話練習でどのような

- 困難を感じているのでしょうか？
- 言いたいことはあるのに、英語が出てこない。
- 枠にとらわれずに自分の言いたいことを英語で伝えたい。
- もう少しゆっくり、英語で話してくれたら聞き取れるのに。
- 英語で大事なことを言っていたのに理解できないことがあった。
- 「そんなことはないでしょう」と感じているのに、英語で納得してもらえない自信がない。
- 相手が自分の思ったことを話してくれない。
- 相手が自分のことばを理解してくれない。

英語の教師であるあなたは、授業を次のようにしたいと考えています。

- 英語の授業でペアワーク、グループワークを行いたい。
- 英語による生徒同士のコミュニケーションを活性化させたい。
- 教師である自分の問いかけに、パターンではなく生徒に英語で答えさせたい。



Conversation Strategies は、きっとあなたの役に立ちます。**Conversation Strategies** は学習者が、英語の会話を学びつつ、会話で生じたさまざまな問題を具体的に解決する strategy (方略) を実践的な練習問題を通じて習得できるよう構成されています。

Conversation Strategies の使い方



Contents (目次) を見てください。これまでの英会話学習のテキストと何が違いますか？

- この目次から何が見えてきますか？

1. Rejoinders ◆ 1	1. 状況に応じて即答する、短い応答
2. Follow-up Questions ◆ 5	2. 質問の答えに質問して理解を深める
3. Confirmation Questions ◆ 9	3. 自分の理解が正しいか質問して確認する
4. Clarifications with Question Words ◆ 13	4. 聞き取れなかった単語が分かるように質問する
5. Keeping or Killing the Conversation ◆ 17	5. 会話をやめる、続ける
6. Expressing Probability ◆ 21	6. できごとがおきる可能性を述べる

7. Interrupting Someone ◆ 25	7. 人の話を遮る
8. Echoing Instructions ◆ 29	8. 指示されたことを繰り返す
9. Polite Requests, Responses, and Excuses ◆ 33	9. 失礼がないように、お願いする、答える、事 情を説明する
10. Getting a Response ◆ 37	10. 考えを述べてもらう
11. Soliciting Details ◆ 41	11. より詳しく説明してもらう
12. Responding with Details ◆ 45	12. 質問により具体的に答える
13. Making Comparisons ◆ 49	13. 2つのものを比較する
14. Finding the Right Word ◆ 53	14. より適切な単語を見つける
15. Exploring a Word ◆ 57	15. 知らない単語の意味を知る
16. Correcting Someone ◆ 61	16. 相手の誤りを正す
17. Eliciting Confirmation ◆ 65	17. きちと分かってもらえたか確認する
18. Starting and Stopping a Conversation ◆ 69	18. 会話を始める、会話を終える
19. Beginning and Ending a Phone Call ◆ 73	19. 電話をかける、電話を終える
20. Expressing Opinions ◆ 79	20. 意見を述べる
21. Making a Group Decision ◆ 83	21. みんなが納得できる決定をする
22. Discussion Connectors ◆ 89	22. 討論をつないで深める
23. Summarizing ◆ 95	23. 要約する
24. Conducting a Formal Meeting ◆ 99	24. 正式な会議に参加する
25. For Fun: Find the Strange Word ◆ 103	25. なかまはずれの単語を探す
26. Volunteering an Answer ◆ 108	26. 進んで質問に答える

目次にはさまざまな「ことばを使ってできること」が並んでいます。「ショッピング、道案内、レストラン、駅、空港、天候、時間、映画館、スポーツ観戦」のような会話が行われている場面が登場していません。聞き手がいることを前提として、相手をよりよく理解する、自分をもっとわかってもらう表現を練習します。しかも、この表現は場面を問わずに使うことができます。これが、**conversation strategy** (会話方略) です。

Introduction (はじめに)

本書にはペアや少人数のグループで行う会話学習活動が収録されています。英語を第二言語もしくは外国語として使用する中級レベルの学習者を広く対象としています。活動は学習者の視点から作成されています。教師の視点ではありません。また、活動的ではないシャイな学習者も無理なく参加できるようにタスクをデザインしました。活動は教師にも生徒にも楽しめるものとなっていて、教師は授業で簡単に実践できます。

本書のタスクを通じて、方略的会話スキルと呼ばれる、問題解決を目指して会話を自ら組み立てるスキルが身につきます。このスキルは言語学や社会言語学で話題となる、文法、語彙、言語使用に関するスキルに基づくものです。方略的スキルにより、話し手も聞き手も自然で望ましい結論へと会話を進める

ことができます。これには以下のようなスキルが含まれます。

◆ beginning a conversation	◆ 会話を始める
◆ clarifying something	◆ 分かりにくかったことを確認する
◆ interrupting someone	◆ 相手の話の途中から割り込む
◆ rephrasing something	◆ 分かりやすく言い換える
◆ correcting someone	◆ 「おかしい、違う」と感じたことを相手に訂正してもらう
◆ eliciting information	◆ 相手からさらに情報を引き出す
◆ soliciting attention	◆ 相手に関心を持ってもらう
◆ repairing a conversation	◆ 行き詰った会話を立て直す
◆ summarizing a conversation	◆ 会話全体をまとめる
◆ escaping from a conversation	◆ 会話の話題を変える
◆ ending a conversation	◆ 会話を締めくくる

本書の構成はシンプルです。それぞれの活動は、教師による導入、生徒による準備練習、ペアや小グループによるタスク、という3つのパートから成り立っています。

- ◆ **Teacher's Introduction** (教師による導入) はなるべく短くして、**Appendix** (付録) に配置しました。
- ◆ **Introductory Exercise** (準備練習) では、タスクの実施に必要な語句や表現を学びます。この学習は個別に行うこともパートナーとともに確認することもできます。
- ◆ ペアや小グループによる活動では、会話が進むような **information gap** (情報差) を配置しています。

「活動は必ず目次に現れる順序で行わなくてはならない」ということはありません。個々の活動はそれぞれ完結していて、「○○は××の活動の後に行く」というような依存関係はありません。とは言え、まず、最初の **Activity 1, Rejoinders** (短い応答) から始めてください。rejoinder は、本書のほぼすべての活動で応用できます。

On Strategic Competence

conversation strategy (会話方略) は会話に必要な strategic competence (方略的能力) です。

strategic competence について、本書の p. vii, **On Strategic Competence** には次のように記されています。



みんなには、ただわかってもらうだけではなく、納得してもらうことができた。まさに方略的知識だね。

コミュニケーションアプローチは語学教育において揺るぎない位置を確立しています。誰も語学学習や言語そのものの目的はコミュニケーションにある、ということを簡単には否定できません。言語はメッセージそのものではなく、メッセージを伝えるための道具、media (メディア) です。また、communicative competence (コミュニケーション能力) のように competence (能力) という語が communication (コミュニケーション) という語と組み合わされて用いられるようになりました。これはコミュニケーションを行う際に人が習得すべき具体的な能力やスキルが実際に存在していることを示唆しています。linguistic competence (言語能力) は人が持つさまざまな能力の1領域です。学習者は適切に発音でき、文法規則を守り、多くの語句を覚えなければなりません。学習者は基本的な言語スキルを習得した上で、社会言語学の視点からことばを実際に使用する際に求められる能力を深め、文化的、社会的に適切にコミュニケーションできなければなりません。最新の学習教材はこうした能力を伸ばすために作られています。近年、今までとは異なる領域のコミュニケーション能力として、認知され名称が与えられたものに strategic competence (方略的能力) があります。strategic competence についてはいまだに形式的な文法や機能的なシラバスから正確な定義が与えられていません。また、言語使用の社会的なレベルが社会言語学上で記述されているわけでもありません。しかし、学習者が学び教師が指導すべき能力の領域とされています。2人の話者が活発にコミュニケーションというギブアンドテイクを行う際に用いられる語句や決まりごとは確実に存在しています。この能力の特性の中には言語の違いを超えて成立するものもあれば、言語間で異なるものもあります。この言語間の違いにより、十分に言語が使えていないとみなされることもあります。例えば、私たちがことばを使う際に、誤って単語を用いたり、言いたい単語がすぐに出てこなかったりすることがあります。母国語でも同じことが生じます。その時、言い間違いを修正したり、浮かんでこない語彙を別の語彙で置き換えたりするわけですが、効果的に修正や置き換えができる場合とできない場合とがあります。学習者はこのような方略的能力について認識すべきです。

本書の目次に「ことばを使ってできること」が並んでいたのは、会話に必要な方略的能力の習得を目指しているからです。

Appendix から読んでみよう

Contents (目次) の次に p. 127 **Appendix** (付録) を開いてみてください。 **For the teacher** (教師向け) と但し書きがあるように、教師を対象に書かれたものですが、自学自習で **conversation strategy** を使う際にも役に立ちます。

General Procedure for All Activities をまずやってみる

General Procedure for All Activities (すべての活動で行うべきこと) として、次のことがらが記されています:

1. **Teacher's Introduction** (教師による導入) を読み、学習者に分かりやすいことばで解説します。活動の目的を理解します。
2. 各活動の 1 ページ目、タイトルの下に記されている重要な表現にざっと目を通し、意味が分からないものはないか、きちんと発音できるかを確認します。
3. 学習者に **Introductory Exercise** (準備練習) を解答させます。この練習問題は 2 段階で行います。
 - a. 個別活動。それぞれの学習者が自分で空所に入る語句、表現を考えます。
 - b. ペア活動。それぞれの答えを互いに確認します。

学習者を順番に指名して答えさせて、正解を確認します。

4. 学習者にペアや小グループで活動させます。Step One では 2~3 名の学習者にモデルをさせて全体で活動を確認します。どのような活動をしたらよいのか、クラス全体が理解できます。学習者にモデルさせると高い効果が期待できるので、活動を問わず行ってください。生徒が活動をしている間、教師はペアやグループを回り、それぞれの活動の重要表現を積極的に使うよう指導します。

Teacher's Introductions から活動の目的を知る

p. 129 からの **Teacher's Introduction** (教師による導入) には、それぞれの活動の目的が簡潔に分かりやすく記されています。カタログをめくるように、学習者のニーズに合った活動を選びます。会話は、1 つの文では成立しません。複数の人がいて複数の文を交代に発することで会話は成立します。それぞれの活動で、1) どのような表現を、2) 話し手と聞き手がどのような状況で発すれば、3) 話し手から聞き手に、もしくは聞き手から話し手に、「...してほしい」と望んでいることが行われるのか、の 3 つを理解します。

- ？ 以下は Activity 1: Rejoinders（状況に応じて即答する、短い応答）の Teacher’s Introduction です。
- この記述を読み、1) 表現、2) 状況、3) 目的 をまとめてみてください。

Teacher’s introduction: Rejoinders are used to show that you are listening, that you understand and that you are interested. If I say, “My dog died last night,” and you say nothing, I won’t know if you heard me, or I might think you weren’t interested. However, if you say, “That’s great!” then I know you heard me, but you didn’t understand. On the other hand, if you say, “I’m sorry to hear that,” then I know you understood me and you were interested in what I said.

1	1) 表現	That’s great! / I’m sorry to hear that.
	2) 状況	話し手が聞き手に、聞き手の知らない情報を提供している。
	3) 目的	聞き手は、しっかり聞いている、言っていることが理解できている、興味がある、と話し手に伝えたい。

- ！ 「状況」は、話題となっている情報が聞き手の知らない新しいものなのか、それともすでに理解している古い情報なのかを考えると見えてきます。「状況」は「文脈、context」とも呼ばれます。「状況」を考慮しない発話は存在しません。「目的」では何がしくてことばを発しているのかを考えます。

- ？ 以下の Activity 2: Follow-up Questions（質問の答えに質問して理解を深める）ではどうでしょうか。

Teacher’s introduction: We use follow-up questions to talk more deeply about a topic. If you ask someone a question and they answer it, it is often good to *ask a question about their answer*. Also, by doing this, it shows that you are listening and are interested in what others are saying. In this activity you should also continue to practice rejoinders. So first, let’s review some rejoinders.

2	1) 表現	What ___? / What kind of ___? / Where ___? / How long/far/late/big ___? / When ___?
	2) 状況	話し手は尋ねられた質問に答えた。
	3) 目的	質問に対する話し手の答えに質問し、トピックの理解を深めたい。 聞き手は、しっかり聞いている、興味がある、と話し手に伝えたい。

この **Teacher's Introduction** には具体的に用いられる表現は登場しません。p. 5 からの本文を参照します。1)から 2)の項目とは関係ありませんが、最後の 2 行で「この活動では rejoinder についても練習する。rejoinder について復習する」とあります。実際の活動に関係する重要な情報です。本文より明らかになりますが、rejoinder と follow-up question を連続させることで会話がより活性化します。

Activity 2 の目的は 2 つあります。2 つ目の目的は **Activity 1: Rejoinders** とほぼ同じです。follow-up question は rejoinder の一種とも考えられます。このことは、**Activity 1** と **2** の **Conversation strategies** を比較してもわかります。

Conversation strategies を比較する

Activity 1: Rejoinders (page 1)

Conversation strategies: Active listening, sustaining the conversation.

Activity 2: Follow-up Questions (page 5)

Conversation strategies: Sustaining the conversation, soliciting others' opinions.

Conversation strategies にリストされている項目の中で、sustaining the conversation (会話を継続する) という項目が両方に現れています。

このように、**Conversation strategies** には、方略を分類するためのやや専門的な特徴が短い語句で与えられています。リストされている項目を比較すれば、それぞれの方略の似ている点と異なる点が明らかになります。**Conversation strategies** の項目をわかりやすく解説したものが **Teacher's Introduction** です。専門的な用語は、実際に活動を行いながら少しずつ理解していきます。例えば、**Activity 2** の soliciting others' opinions とは何でしょうか。英和辞典によれば「ほかの人の意見を誘う、懇願する」のようになるでしょう。本文の活動を行うことで、「他の人がどのような意見を持っているか話してもらおう」のよう

なことを意味していることがわかります。

いよいよ本文を開く

それでは p. 5 を開いて **Activity 2** に取り組んでみましょう。

イラストから状況を理解する



どの活動もイラストから始まります。Activity 2 のイラストはどのような状況を表していますか？



2人の女の子が話をしています。カジュアルな服装をしていて、手には教科書と思える本を持っています。星条旗が後方に見えます。その後ろには建物があります。学校でしょうか。学校の前庭に星条旗が掲げられているのでしょうか。

女の子は問いかけます: AND WHAT ELSE DID STEVE SAY ABOUT ME? 疑問文で、すべて大文字で書かれています。読みにくいので大文字と小文字の入ったふつうの文に書き改めます: And what else did Steve say about me? (それで他にスティーブは私のことで何と言っていた?)

発言をしている左側の女の子を A、右側を B とします。A は what else ...? (他に何か?) と B に聞いていることから、この発言の前に、スティーブが A について話していたことを、B が A に伝えていたことがわかります。「他に何か?」と聞くことで、B からさらに情報を引き出そうとしています。これが solicit ~ (~を誘う) ことです。

イラストは会話の状況を的確に表現しています。学習者にイラストが表す状況を考えさせます。活動で紹介されている表現を使う具体的な状況をイラストから視覚的に理解します。

重要な表現にざっと目を通す

イラストの下にこの活動で学ぶ表現がリストされています。ざっと目を通して意味がわかるか、発音できるかを確認します。

◆ Follow-Up Questions ◆

What _____ ? What kind of _____ ?

Where _____ ? How long/far/late/big _____ ?

When _____ ?

See the teacher's introduction on page 129.

Introductory Exercise One で表現の綴りと発音、意味を確認する

Introductory Exercise (準備練習) では学習すべき表現が正しく書けるか、発音できるか、意味を理解できているか、を確認します。空所に入る表現は直接、教科書に書き込ませず、ノートに書かせるようにします。

Introductory Exercise One

Fill in the blanks with the words or phrases in **bold type**.

Where **Oh, really** **see** **What**

1. A: (*Question*) What time did you go to bed last night?
2. B: (*Answer*) At midnight.
3. A: (*Rejoinder & follow-up*) _____ ? That's late!
_____ were you doing until midnight?
4. B: (*Answer*) I had a date.
5. A: (*Rejoinder & follow-up*) I _____ .
_____ did you go?
6. B: (*Answer*) We went to a party at a friend's house.

Teacher's Introduction で指示されていたように、この活動では rejoinder と follow-up question を組み合わせて応答します。正しくこの2つが使えるように、(*Rejoinder & follow-up*) のように指示があります。まず、1人ひとりで答えを考え、次にペアで答え合わせをします。教師は問題ごとに学習者を指名して正解を確認します。正解の確認の後、イントネーションに注意しながら音読を行います。一斉、ペア、

役割交代してペア、のように音読の形式を変化させます。Rejoinder はその意味を反映するように感情を込めて発音させます。学習者が意味に適さない発音をしている場合には注意します。

Introductory Exercise Two はより自由な活動

Introductory Exercise Two は One とは異なり、正解が1つに決まるものではありません。学習者に自分自身のことを考えさせ発言させる、自己表現活動です。話し手の自己を表現した発言を rejoinder と follow-up question で聞き手が受けることで会話を成立させます。まさに会話の基本中の基本です。

Introductory Exercise Two

Think of answers, rejoinders, and follow-up questions, and write them in the following blanks.

14. A: (*Question*) What kind of job do you want in the future? _____
15. B: (*Answer*) _____
16. A: (*Rejoinder & follow-up*) _____
17. B: (*Answer*) _____
18. A: (*Rejoinder & follow-up*) _____
19. B: (*Answer*) _____
20. A: (*Question*) Do you have a roommate?
21. B: (*Answer*) _____
22. A: (*Rejoinder & follow-up*) _____
23. B: (*Answer*) _____
24. A: (*Rejoinder & follow-up*) _____
25. B: (*Answer*) _____

この練習では、14 から 19 までと 20 から 25 までは別の会話となっています。

自由度の高い会話練習では、教師が1人2役をこなしてモデルを示したり、複数の学習者を指名して適切な会話となっているか全体で確認したりします。最初はなかなか会話が続きませんが、慣れてくるとさまざまに会話が展開します。座席を移動させて、パートナーを変えて練習させてもよいでしょう。

information gap を用いた活動で完成させる

p.7 を開いてください。Student A と書かれています。裏の p.8 を開いてください。Student B と書かれ

ています。A と B でペアになった学習者がそれぞれ異なるページを見て自分の知っている情報を伝え、知らない情報を聞き出す、*information gap* (情報差) を用いた活動です。単純なペア活動ではありません。

Step 1, Step 2, Step 3 で指示された活動はどのように異なるのでしょうか。



ここではどのようなペア活動をしますか?

Step 1

Student A

Step 1. Ask Student B these questions and respond with rejoinders and *several* follow-up questions.
Also, answer Student B's questions.

1. What country would you like to visit someday?
3. How many members are there in your family?
5. Have you read any books or seen any movies lately?
7. Are you happy you're a student in this school?

Student B

Step 1. Ask Student A these questions and respond with rejoinders and *several* follow-up questions.
Also, answer Student A's questions.

2. Did you send an email or text anyone today?
4. Recently, what are you most worried about?
6. What were you doing a year ago?
8. What is your country's biggest problem today?

この活動では、ペアのパートナーにリストされている質問を行います。パートナーが答えたら、*rejoinder* とともに複数の *follow-up question* で応答します。Student A の質問は 1 から始まる奇数、Student B は 2 から始まる偶数となっています。番号順に交代しながら質問します。

Step 2

Step 2. With a partner, write several questions in the space below.

Step 1 では行う質問があらかじめ与えられていました。質問をペアとともに作り出すのが **Step 2** です。「以下の余白に質問を書く」とありますが、ノートに質問を書き留めていきます。

Step 3

Step 3. Find a new partner and take turns asking your questions and responding with rejoinders and follow-up questions.

パートナーを変えて **Step 2** で作った質問を行い、相手の答えに **Step 1** と同様に rejoinder と複数の follow-up question で応答します。

Conversation Strategies は学習者中心の活動

このように、**Conversation Strategies** は、学習者が自ら「ことばを使ってできること」のスキルを段階を追って発展させられるように構成されています。著者が述べているように、すべての活動を順番に学習する必要はありません。生徒のレベルや興味に応じて活動を選び、学習の順番を変えることができます。そのためにも、まず、この「手引き」で示した、1) Contents から全体を理解し、2) Teacher's Introduction から活動の目的を知り、3) 本文に指示された複数の活動の意義を踏まえた会話指導を行う、という本書を活用する際の基本的な取り組みの流れを把握してください。

Conversation Strategies はきっとあなたの役に立ちます。

渡辺雅仁

横浜国立大学 国際戦略推進機構 基盤教育部門 英語教育部 教授

- 【著書】 ランゲージアーツ ―学校・教科・生徒をつなぐ6つの言語技術 2016年07月
翻訳 玉川大学出版部
- 【著書】 アメリカンキッズ えいご絵じてん 2011年07月
翻訳 玉川大学出版部
- 【著書】 マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編) 2010年11月
翻訳 ケンブリッジ大学出版局
- 【著書】 マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編) 2011年11月
翻訳 ケンブリッジ大学出版局
- 【著書】 イラストで楽習 英語のツボを掴むアメリカンイディオム101 2009年10月
翻訳 南雲堂フェニックス